

## セミナー通信

V o 1 . 293

西村セミナールーム

主宰 西村 恵子

## 2018年度卒塾生 克服

キュートな笑顔の、明るく元気な女の子。彼女の第一印象である。塾生の友達の紹介ということであったが、実は小学生の時に通っていた書道教室の先生にも以前勧められたと言うのだ。「〇〇ちゃんは中学生になったら西村塾が合うと思うよ。」と。私の存じ上げない先生であったが、彼女曰く、「自分はきちんとやるということが苦手なので、西村塾だとそこを改善させて力を伸ばしてくださるからと勧められました。」と屈託なく笑った。正直で包み隠さず何でも話してくれる彼女。当塾の扉を叩いたのは中学入学後ほぼ一年がたった、中一の三月だった。

入塾テストの結果は散々。英語は中1の大体の文法はわかっているものの、肝心の単語のつづりがほとんどろ覚えなものだから点数にならない。数学も計算の途中式を書かないものだから、どうしてもミスが出て、これまた点数にならない。基礎から鍛え直す必要があった。本人の「頑張ります。」という言葉を受け入塾決定。内申32からのスタートだった。

普通、塾の授業に慣れるまでには時間がかかる。塾では学校以上に速いテンポで大切な言葉がどんどん飛び出してくるのだ。一瞬たりとも気が抜けない。そんな授業を理解していくには通常3ヶ月くらいの訓練が必要なのだが、彼女の場合は驚くほどすんなり授業を受け止めた。よく説明を聞いている。よく理解出来ている。論理的に思考できている！これならあとは単語覚えや計算式をきっちりやらせて定着させれば力は確実に伸びる。ただ、「かっちりやり切ること」—これが彼女の弱点だった。学校でもなまじ理解出来ているものだから、何でも8割、9割ぐらいの到達度でやめてしまっていたのだ。彼女には自身のここを超えていく必要があった。

ここから自分との戦いが始まった。眠くても翌日のパートテストの単語を頑張って覚えた。添削されて戻ってきた大量の計算も途中式を見直して直しきった。今まで目を背けてきた“面倒くさいこと”に、投げ出したくなりながらも逃げずに踏ん張った。すると、入塾からわずか2ヶ月後の定期テストで彼女はいきなり学年3位に躍り出たのである。備えていた能力が開花し始めた。その後も徐々に実力を蓄えていき、3年の秋の模試では偏差値を73.4まで上げた。もう、この頃は塾に引っぱり張られての努力ではなく、自ら努力の出来る人間になっていた。目標のため自分に必要な勉強は妥協せず最後まで取り組む。彼女は自分の弱点を克服したのである。

42まで上げた内申と十分な実力とギャルになる夢を持って旭丘高校に入学。何だって出来る自由な高校である。思い切り羽ばたいてほしい。思うようにいかないこともあるかもしれないけれど、彼女にはどんなことも超えていく力と自分を信じる力がある。私も心から信じている！